



デンマークの福祉用具供給システムから

大阪府立看護大学医療技術短期大学部 作業療法科 古田 恒輔

はじめに

昨年10月後半から11月にかけてドイツのデュッセルドルフで開かれた国際福祉機器展を訪問し、その後デンマークの北ユトランド半島にある、オールボーの県立補助器具センター（テクニカルエイドセンター）と市の補助器具倉庫、多発性障害者施設、リハビリテーション訓練施設などを見学して来ました。デンマークの福祉や機器の供給については、多くの方が探訪記などをお書きになっていますが、近々日本でも県レベルの補助器具センターの第1号が開設を予定しており、このことを踏まえて福祉機器（補助器具）の給付のシステムの比較とこれからのありようについて考えてみたいと思います。

1. デンマークの福祉機器の供給システム

簡単にデンマークにおける福祉機器の供給システムに触れておきます。

デンマークは、国、県、市のレベルで責任の分担がはっきりしています。

国（中央政府）レベルでは、社会保障省（The Ministry of Social Affairs）によって補助技術の供給と福祉機器の管理・運営の支持に関する法律の立法化を行い、その責任を負っています。加えて、教育、住宅、健康労働の各省もまた多くの場面に影響を与えています。しかし、これらは、これらの分野の発展をめざしたコントロールとしての立法化と予算の編成を行うだけで、詳細についての指示やコントロールは全く行いません。

県（Country）レベルでは、地域の専門家の活動範囲以外の特別なサービスを行っています。デンマークには14の県とコペンハーゲン市が県レベルに取り扱われており、必ず1つの補助器具センター（テクニカルエイドセンター）（写真1）とリハビリテーションセンター、県立病院、社会福祉施設を設置しています。県の補助器具センターの主な働きは、市の調整者（作業療法士）やユーザーが適切な補助器具を見つけるための多種の機器の展示、試用のチャンス（写真2）と、指導・助言を行うことです。特に、補助器具の機能と適用技術に関して試用や調整（写真3, 4）、機種選択の支援、家庭と職場の調整など幅広い助言サービスを行っています。また、各種サービスの普及・教育も行っています。



写真1
デンマークのテクニカルエイドセンター



写真2
テクニカルエイドセンターの浴室評価室（オールボー市）



写真3
適用技術に関する試用・調整・助言室



写真4
トイレのシュミレーションルーム
便器以外の洗面台、手すり、壁面の移動が可能

市（Local）レベルでは、福祉機器の供給の決定・供給のほか、他の社会的サービスを一元化して行っており、すべてのサービスは、住民にもっとも近い市レベルで行われます。市には、専門の作業療法士がおり、本人や本人の周囲の看護婦やヘルパー、近隣の人々から電話1本で機器やサービスの依頼をする事が出来、依頼によって市の作業療法士が訪問し、評価した上で適用技術やサービスを決定します。（図1）。福祉機器は、市の設置した補助器具倉庫（写真5）にメーカーから買い取られて常時在庫しており、指示があれば即座に供給されます。また、補助器具倉庫に在庫していないものはメーカーから取り寄せられ供給されます。

特別なケースや市の作業療法士で対応できないとき、適応機器の判定が困難な場合は、県の補助器具センター（テクニカルエイドセンター）に援助を求め、アドバイスを得たり、直接機器の判定や調整を行います。また、これらのサービスシステムは、市独自で修正変更が可能で、地域の特性に応じた新たなシステムが中央政府の制限なく実施することが出来ます。訪問した市や県によってシステムが異なることもあり、市の担当者から、「このシステムがデンマークのスタンダードととらえないでほしい」といったことがよく聞かれます。デンマークでは、どの地域でもすべての機器やサービスは無償で行われていますが、福祉機器やサービスが財政をかなり圧迫しており、以前の無償給付から貸与制度に変わって

(その1)

います。必要に応じて市から貸し出し、必要がなくなれば市に戻し、再度用いると言った「リサイクルシステム」が導入されています。日本でもレンタル制度が導入され（利用者はレンタル料を支払う）ており、今回はこの点について特に重点的に見学をしました。

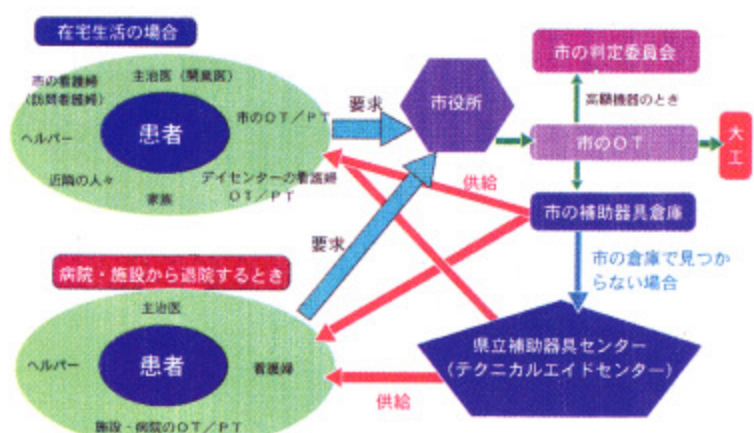


図1 デンマーク・市におけるテクニカルエイド供給システム (窪田 静による)



写真5 オールボー市の補助器具倉庫外観

2. リサイクルシステム

日本においてもレンタルシステムの有り方・研究がテクノエイド協会の手により始められ、平成元年に「福祉機器動向調査」、平成3年より「レンタルモデル事業」が札幌と長野で行われました。これらの結果については、平成6年発行の「福祉機器レンタル事業のモデル実験から総括報告書」に詳しく掲載されており、この中に、「返却後のメンテナンス」としての消毒補修の手順が詳しく記載されていますが、なかなか実施されていないのが現状のようです。この点でデンマークの現状やシステムに参考になるものがないかと期待して訪問しました。

デンマークでは、補助器具倉庫に、リサイクルのための洗浄、修理、保管パートがあります。専門の職員がこれらのパートを担当しています。写真7は引き取られた機器を洗浄するブースです。高圧のガンと洗浄液（石鹼）で汚れを落とします。この後車椅子や歩行器などは、さびを落とし、可動部分の調整を行い、ほぼ新品として見間違える状態で保管されていました（写真8,9）。マットレスやクッション類はほとんどリサイクルされず、一部の洗浄可能なスライディングシート類のみがクリーニングに出されて保管されていました（写真10）。日本のモデル事業で示されたマットレスの「MS式大気圧変動式滅菌消毒乾燥機」や「塩素剤によるおむつカバ

ーなど消毒」などを経たりサイクルは全く行われておらず、このような機器も全くありませんでした。これらの消毒を必要とする用具は、リサイクルの方が経費がかかるためと考えているようです。また、運送車両（写真10）の衛生管理も行われていませんでした。一方、保管については、かなり多種多量の機器があり（写真11）、かなり手狭な状態になっていました。このようなリサイクルシステムは、その後訪問したスウェーデンでも同様でした。当初、充実したリサイクルシステムが導入されていると考えていましたが、ほとんど期待したほどではありませんでした。（つづく）



写真6 補助器具倉庫の洗浄ルーム
左から2番目が所長の作業療法士

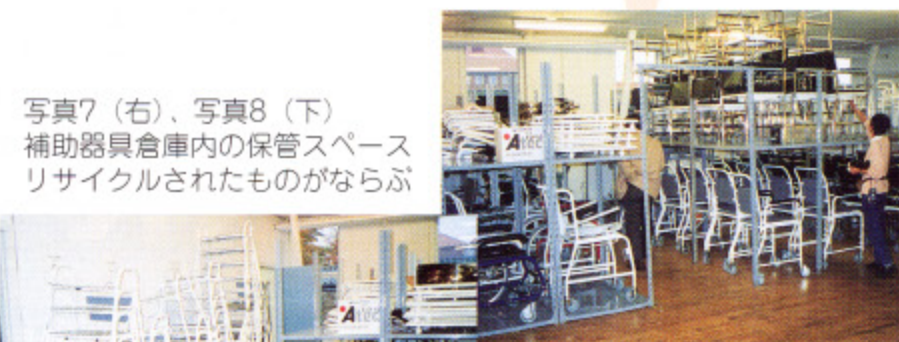


写真7（右）、写真8（下）
補助器具倉庫内の保管スペース
リサイクルされたものがならぶ



写真10 補助器具搬送用トラック



写真9 補助器具倉庫内のリサイクルされたスライディングシートやマット類



写真12 雑然と保管されるリサイクルされた特殊機器